



七夕まつりめん流し

おおさきかみじま 議会だより

第53号/2016年8月5日

平成28年6月定例会

- 6月定例会 ————— 2
- 5 議員が一般質問 ————— 3～6
- ルンビニ幼稚園紹介 ————— 7
- 委員会報告 ————— 8～9
- 追跡・編集後記 ————— 10

第2回定例会(6月議会)

大崎上島町議会は、平成28年第2回定例会を6月22日、24日の二日間開会した。
5名の議員の一般質問に始まり、7件の議案、6件の報告、審議、可決および承認した。

決まった主なこと

- 一般会計補正予算(第1号)
- 国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)
- 介護保険事業特別会計補正予算(第1号)
- 干拓地管理特別会計補正予算(第1号)
- 人権対策協議会条例の一部を改正する条例
- 国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 教育委員会委員の任命の同意
氏名 北山 博子氏(再任)
- 繰越明許費繰越計算書(報告)
- 専決処分した事件の承認(入湯税の減免など5件)



修学旅行生等の入湯税の減免が承認される

一般質問

町政を問う

5人の議員が9項目を質問



おじり やすじ 議員
尾尻 康二

質問（尾尻議員）

6月に開催されたマラニック大会とトライアスロン大会は島外から大勢の選手の参加があり、盛大な大会となった。

特に、トライアスロン大会は島内業者が行い、町も50万円の補助金を拠出し後援を行った。250名程度の選手の参加があり、大きな経済効果があった。

今後も交流人口の増加を見込めるスポーツイベントであり、発展させることが必要である。

大会の終了に伴い、今大会の評価、問題点と今後の支援対応について伺う。



問

スポーツイベントの後援は

答

できる支援は行っていく

答弁（地域経営課長）

このたびのマラニック大会やトライアスロン大会が、民間主導のイベントで実施され、すばらしい成果を上げられたことは、本町にとっても大変喜ばしいことである。

当大会の問題点については、大会が終了したばかりで把握できてないが、事故もなく終了したことを関係者から聞いている。島外からの参加者も多く、交流人口、経済効果も成果が上がった。

今後も、町の活性化に資する事業については、できる支援を行っていききたい。

問

大学の誘致の状況は

答

民間組織が進めている

質問（尾尻議員）

当局においては、当該大学と誘致の協力に関する覚書をかかわしている。開校予定まで4年間となっているが、今後どのような手法、スケジュール等で開校にむけて取り組まれるのか、具体的な計画の進展があれば説明頂きたい。

答弁（町長）

誘致については、民間の法人組織ができ、事務を進めている。「教育の町」を目指しており、法人への支援は積極的に行いたい。

だが、毎年の運営資金の補助は困難であると表明している。今後のスケジュールは、今年度はサマースクール開催に350万円の支援を行う。その後は法人が立てるスケジュール等に基づき、その都度できる支援を行っていききたい。



かん だ たいすけ 議員 関田 大祐

問 行事日程の調整を

答 各種団体に依頼し情報収集に努める

質問（関田議員）

様々な団体が週末に行事予定を組み、ほぼ毎週と言っていいほど何かのイベントが行われている。

同日に複数の行事が行われることもある。

それぞれ別の組織が行っていることで、役場としての関与は難しいのかもしれないが、各種団体の調整役として町が日程調整をしてはどうか。

参加者が分散してはにぎわいも分散すると思うが。

答弁（総務企画課長）

年度当初に各課および各課の担当する各種団体の行事日程を把握し、町ホームページに掲載したり町と各種団体に共有をしているので、ある程度は出来ている。現在把握できていない団

体の日程なども含め、可能な限り開催日が重ならないよう努力していく。



どうりん きよたか 議員 道林 清隆

問 町内一斉避難訓練の実施を

答 計画を立て実施する

質問（道林議員）

台風、豪雨、地震、津波等の大規模災害発生時の町民一人ひとりの行動、とりわけ突然起こり得る地震発生時

の行動如何によっては生死が分かれることも考えられる。

災害発生の際に一人ひとりがどのような行動すれば良いかを身につけるため

に、さまざまな大規模災害を想定した町内一斉避難訓練を毎年定期的に行う実施する考えはないか。

答弁（総務企画課長）

平成24年11月に津波災害を想定した町民避難訓練と町職員による避難勧告等の発令伝達訓練を行なったが、それ以降は行っていない。



土砂崩れの町道



大崎海星高校文化祭

今年度は、防災関連施策の最重点項目として、各区における自主防災組織の整備に努めることとしている。



前田 太 議員

繰り返し訓練を実施することが、防災意識の高揚及び災害時の行動へ、特に大切であるとの認識から、毎年定期的に全町民を対象とした避難訓練が実施できる

よう、各区長をはじめ、関係諸機関との協議をすすめ、協力を得ながら、その手法の確立に努め、計画を立てて訓練を実施する。

問 自主防災組織の充実を

答 最重点項目として整備を図る

質問（前田議員）

熊本地震とその後の水害で甚大な被害が発生した。

町でも災害を予防・軽減する活動を行う地域住民による自主防災組織の整備が必要だが整備は県内でも低水準だ。

また発災時には人材の多くが消防団活動に従事しなければならぬ。

*防災士の養成や知識、経験、技術を持った人

材発掘や啓発なども考慮すべきだ。

どのように整備していく方針なのか。

答弁（総務企画課長）

自助・共助の面からも組織の整備・充実は急務であり、防災施策の最重点項目として掲げ、各区長等と協議を重ねる。

防災士養成も多くの方が資格取得できるよう具体策を検討する。

再質問（前田議員）

組織の必要性は理解しても、それぞれの事情や考えで世話を引き受けることは避けたい方が多いのは事実だ。特定の人の負担が重くなり組織として健全に活動できるのか。

答弁（総務企画課長）

自助、共助の面について、各地域に自主防災組織を組織する必要性を改めて訴え、粘り強く働きかける。



崩落した原田地区の橋

*防災士
地域の防災意識の啓発、防災力の向上に努め、災害発生時には避難誘導・救助にあたる人。
日本防災士機構の認定する民間資格。



信谷 俊樹 議員

問

小型モビリティの収支や稼働状況は

答

黒字化を目指す

質問（信谷議員）

小型モビリティの稼働状況・収支・利用状況は。

答弁（地域経営課長）

稼働状況は垂水港に1台、山陽バスに2台、ホテル清風館に2台の計5台稼働している。収支については平成27年度で約110万円の赤字だ。今年9月でリースが終了するため、年間のリース料が大幅に安くなる。



皆さんものんびりドライブいかがですか？

問

「生涯活躍の町」への対応は

答

本町は提案をしていない

質問（信谷議員）

「生涯活躍の町」という事業について国が各自治体からの提案を募ったが、本町はどのような提案をしたのか。

答弁（町長）

「生涯活躍の町」という事業は、介護を含めた福祉施設を町に作り、首都圏の高齢者を呼び寄せるといって国が中心になって進めている事業だ。本町で実施すれば雇用は見込めるが、人材が不足しており確保が困難だ。また、総合病院が近くにないと運営も難しいと思われるため、本町では提案をしていない。

問

住宅耐震改修の助成金充実を

答

前向きに検討する

質問（信谷議員）

住宅耐震診断の助成金が自治体によって違うが、本町ではどのようにしているのか。また耐震改修工事の助成は。

答弁（建設課長）

耐震診断は過去に制度化していたが、需要がなかったため現在は実施していない。だが、今回の熊本地震を踏まえて支援体制を検討する。答弁（町長） 今回の熊本地震では多くの家屋が倒壊している。耐震改修工事の補助制度も創設したい。

問

子ども・子育て支援新制度の行方は

答

国や県の動向を注視する

質問（信谷議員）

子ども・子育て支援新制度に充当される予定だった消費税の増税が延期されたが、事業への影響は。

答弁（福祉課長）

現時点では町単独での支出が増えるなどの影響はないと考えているが、国や県の動向を注視していく。



ルンビニ幼稚園の紹介

議会は、がんばる島の子ども達を応援します。
『このページは、ルンビニ幼稚園より頂いた原稿・写真を掲載しています。』

ルンビニ幼稚園は、1122年創設の正光坊が、宗教活動の一環として、明治12年東野小学校が設立されるまで、文会社と名付けて、寺子屋として地域の教育を担っていました。その後、明治・大正・昭和と地域の子供を集めて、日曜学校として宗教教育をしてきたことが今日のルンビニ幼稚園設立の基礎となっています。

昭和22年に県の許可を受け「ルンビニ幼稚園」として保育活動を始めました。

昭和45年から「宗教法人 ルンビニ幼稚園」となり、昭和60年には「学校法人 正光坊学園 ルンビニ幼稚園」として現在に至っております。

平成27年度より子ども・子育て支援法の施行に伴い新制度へ移行しましたが、今後も、保育内容の充実、教育環境の整備に重点を置きながら、私立幼稚園の特性を生かし、創立時からの方針である、宗教教育をベースにして、情緒豊かな、優しさや強さの育てられる教育の場として、保護者との協力のもとに、幼児教育へ取り組んでいます。

教育の基本姿勢

1 やさしいふれあい

幼稚園は、人として生まれて初めて、親や家庭から離れて、社会への第一歩です。

先生、友達やまわりとのふれあいに、つねにやさしさが必要です。

2 のびのび教育

なにごとにも怖れず。挑戦してみることも大切です。

やさしいふれあいのなかでのびのびと育ててほしいものです。

3 適切なしつけ

自由に健康に活動するなかにも、必要な決まりや、人に迷惑をかけない大切なことがあります。

ルンビニ幼稚園では、運動会やお遊戯会のほかに、保護者参加の手作り給食や、七夕のソーメン流しやお餅つきなど季節の行事もたくさんあります。今年から町の方針でもある英語教室も、月2回開催しています。



園庭で水遊び♪



英語教室も
行っています ABC



お父さんが
カレーを作る日



総務福祉文教常任委員会報告

委員長：越田賢一 副委員長：関田大祐
委員：信谷俊樹 尾尻康二 道林清隆

平成28年度3月定例会以降に開催した委員会での主要な調査、協議事項及び、継続審議した内容と事業内容の審議を報告します。

○光ファイバーの加入状況及び今後の計画

平成28年4月現在で加入件数は1,200件あまりです。毎年、微増しており目標であった1,000件以上の加入件数はクリアしている。

また、ネットワーク機器の更新について、運用開始から10年以上経過しており、機器の一部で耐用年数を超えているものもあり、優先度の高いものから年間1千万円程度の子算規模で更新を行う計画です。しかし、エネルギー・コミュニケーションズと締結している光ファイバー賃貸借契約が平成35年末で期間満了となるため、今後の町の方向性を明確にし計画を進めるよう協議しました。



会議室がサーバー室。設備の整った専用室も必要です。

○乳児健診交通費助成事業

乳児健診交通費助成が平成28年度から開始されます。妊婦健康診査交通費助成と同様に交通費の助成を行うものです。1歳未満の乳児を対象に1人につき4回までです。

乳児の属する世帯の経済的負担の軽減を図り、安心した子育てに資するためです。

○不妊治療費助成事業

広島県の「不妊治療費支援事業」を利用した方に対し、あわせて町独自で1回につき15万円の医療費を助成します。

医学の進歩とともに最新医療として位置づいている特定不妊治療は、健康保険が適用されず高額な医療費が必要である。そのため途中で治療を断念せざるを得ない方も多く、医療費の一部を助成することで治療の継続が図られる。

しかし、プライベートなことでもあり、あまり周知されていない事業なため、町広報などで周知をはかるなど協議しました。

○補正予算

平成28年度6月補正予算の説明を受け委員会で審議しました。

議員研修報告

平成28年5月19日広島県町議会研修会が開催されました。

全国都道府県議長会議制度研究アドバイザー野村稔氏による「地方議会の制度と運営・改革について」の講演会。

また、時事通信社特別解説委員 田崎 史郎氏の「日本の政治は良くなるのか」と題した講演会がありました。

議会傍聴をしてみませんか。

次回の定例会は **9月**です

日程は町内放送・ホームページでお知らせします。

産業建設常任委員会報告

委員長：前田 太 副委員長：浜田幸造
委員：辰田真司 渡辺年範
蒔田篤雄 浜田明利

平成28年3月定例会以降の委員会報告をします。各課から6月定例会で議案となる補正予算案や主要事業の進捗状況などの説明をうけて審議をしました。

○土砂災害防止法

土砂災害防止法の正式名称は「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」です。町では平成26年の広島市北部の土砂災害を踏まえ、土砂災害警戒区域の指定を早急に行い、町民の生命身体保護のための施策を検討します。

そのための基礎調査を27年度から各年度に木江、東野、大崎の順番で行い、翌年度に基礎調査結果の公表と区域指定の説明会を行います。

○観光案内所

旧東野町商工会建物を整備して観光案内所が設置されました。

その業務委託者の公募を行ったところ4社の申し込みがあり、6月20日に選考委員会が行われました。単なる案内所としてではなく、来町者への様々な便宜を図ったり、広報活動や地元業者とのタイアップによる産品開発なども期待されています。



オープンに向けて準備中の観光案内所

○危険建物除却促進事業

本町が定めた基準をクリアする危険建物の除却を行う所有者に対し、費用の30%（上限30万円）を補助

していますが、4月からの実績が240万円に達し予算不足が見込まれます。国費交付額が当初見込みより増額決定され、補正予算に反映されます。大きな補助とは言えませんが、危険建物問題が周知され、その除却に一定の効果が上がっていると認められます。

○各種料金滞納対策

簡易水道・下水道使用料、町営住宅使用料などの滞納について審議しました。利用者はそれを使用することによって得る利益に對価を支払う義務があります。滞納にはそれぞれの事情もあり、それを勘案して町も滞納者と話し合いの上で支払計画を立てるなどの対策を行っています。

利用者（町民）間の公平性を担保し、また回収不能に陥らない様、町の顧問弁護士等とも相談して法的措置も考えるように提言しました。

お知らせ

○本庁・各支所ロビーのテレビまたはインターネットで議会生中継がご覧いただけます。

※インターネットをご利用の場合はホームページの注目記事

「○○議会ただいま生放送中」をクリックしていただければご覧いただけます。

※録画の視聴は町議会メニューの議会録画中継配信でご覧いただけます。

追跡 あれからどうなった

(平成25年6月定例会一般質問から)

質問

木江港湾高潮対策事業について、
今後の計画は

回答

平成26年度から工事着工の予定

その後の経過

広島県の現計画では、平成28年10月から工事の着工を予定している。



編集後記



バングラデシユで日本人7人がテロによって殺害されるという悲しい事件が起こりました。彼らはかの国の発展に役立ちたいとの志しを持って海を渡り、尽力していたのに。日本国も援助するにあたっては自国への利益よりも現地の雇用や技術供与を大事に考え、地元の方たちに感謝されていたと聞いており、痛恨の極みです。

このようなことが起こるたびに一人の日本人青年、中田厚仁さんを思い出します。カンボジアに20年続いた内戦が終わり総選挙を実施する事になった時、彼は志願して公正な「選挙」を中立の立場で説いて回るスタッフになりました。最も危険なコンポトム州の巡回に自ら赴き、村々を懸命に回りました。道すら十分になく、川にぶつかればカ

ヌーで、カヌーが使えないところでは、2時間も濁った川を泳いで回ったそうです。当時のカンボジアに政府はなく、地雷は多く、ゲリラも出る。あまりの危険さに周囲は引き留めたようです。そしてポルポト派兵士に非道にも撃たれ、無線で「私は死んでいきます。」と伝え帰らぬ人になりました。かれは生前に言葉を残しています。

「だけれども僕はやる。この世の中に、誰かがやらなければならぬ事があるとき、僕はその誰かになりたい。」

この何分の一の覚悟が自分でできるのかを考えると恥ずかしくなります。現実の生活の中では、そこまでの覚悟は求められることは無いにしても、「何か自分でも」といった気持ちは持ちたいと思います。

(M・F)

大崎上島町議会

TEL(0846) 65-3130(直通)

FAX(0846) 65-3117

〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野6625-1

URL:<http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/>

議会広報委員

委員長

閑田大祐

副委員長

道林清隆

委員

辰田真司
越田賢一
前田太
浜田幸造